富山大学　学報

第228号

目　次

関係法令……2
学内規則……2
富山大学教育学部規則の一部改正……2
諸会議……4
人事異動……4
学内諸報……5
海外渡航者……5
学内レクリエーション〈バドミントン大会，ソフトボール大会〉……5
職員サークルの紹介〈囲碁班，ソフトボール班，将棋班，排球班……5
工学部の五福移転統合問題に関する経過(その1)　7
寄稿〈北緯7度の島，チュービンゲン滞在記〉…8
保健管理センターだより〈心のトラブル(その2)〉11
中華人民共和国遼寧省青年友好代表団一行の来学13
中華人民共和国遼寧大学からの寄贈図書……13
善行表彰……13
第33回電信電話記念式典における感謝状授受……14
富山大学事務用電子計算機の設置披露……14
職員消息……15
主要行事……15
資料……18
附属図書館利用統計……18

関係法令

	(官報掲載月日)
政　令	
○老人保健法の施行期日を定める政令(292)	11・1
○老人保健法施行令（293）	11・1

	(官報掲載月日)
告　示	
○短期大学，短期大学の学科及び大学の学部の学科の廃止を認可した件(文部148)	10・15

学内規則

富山大学教育学部規則の一部改正

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和57年10月22日　　富山大学長　柳　田　友　道

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

別Ⅶ及び別表Ⅷを次のように改める。

別表Ⅶ

教育専攻科履修基準

科　目	必	選　必	選
個人研究	10		
教育学		6	10
教育心理学		4	
教科教育			
計	10	10	10

別表Ⅷ

教育専攻科開設授業科目及び単位

科目	授業科目	開設単位	必	選必	選
個人研究		10	10		
教育学	教育哲学特論	2		2	
	教育史特論	2		2	
	教育方法学特論Ⅰ	2		2	
	教育方法学特論Ⅱ	2		2	6
	教育社会学特論	2		2	
	教育制度特論	2		2	
	幼児教育学特論	2			2
	精薄児教育学特論	2			2
	○教育学演習	2			2
	○教育学特別講義	4			4
教育心理学	発達心理学特論Ⅰ	2		2	
	発達心理学特論Ⅱ	2		2	4
	教育心理学特論Ⅰ	2		2	
	教育心理学特論Ⅱ	2		2	
	幼児心理学特論	2			2
	精薄児心理学特論	2			2
	○学習心理学	2			2
	○社会心理学	2			2
	○教育統計	2			2
	○心理学研究法	2			2
	○教育心理学特別議義	2			2
	○教育心理学演習	2			2
	○発達心理学演習	2			2
教科教育	教科教育特論	各 4			4
	教科教育演習	各 2			2
計		118	10	10	10
			30		

備考　1.　○印は，別表Ⅲ教育学専攻及び教育心理学専攻と共通の授業科目である。

2.　教育心理学の○印の授業科目については，3科目6単位の範囲内で履修を認める。

3.　教科教育の教科教育特論及び教科教育演習については，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，技術及び英語の各教科においてそれぞれ開設する。

附　則（昭和57年10月22日）

1.　この規則は，昭和58年4月1日から施行する。

2.　昭和57年度以前の教育専攻科の入学生については，なお従前の例による。

▶富山大学教育学部規則の改正理由

教育専攻科の授業科目及び単位数を整理し，教育内容の充実を図るため。

諸　会　議

昭和57年度第8回学寮補導委員会（10月5日）

（報告事項）

(1)全寮委員会との話し合いについて

（審議事項）

(1)学寮の諸問題について（継続審議）

昭和57年度第5回事務協議会（10月8日）

（審議事項）

(1)給与の口座振込について

昭和57年度第3回学園ニュース編集委員会(10月14日)

（審議事項）

(1)第40号学園ニュースの発行計画について

昭和57年度第4回補導協議会（10月21日）

（報告事項）

(1)体育部会1号委員（部会長）並びに同3号委員について

(2)日本育英会奨学生の推薦について

（審議事項）

(1)昭和57年度体育系サークルリーダー研修会について

(2)昭和57年度学生集団スキー講習会について

(3)大学祭における諸問題について

授業料等減免選考委員会（10月21日）

（審議事項）

(1)授業料等免除選考基準について

昭和57年度第7回評議会（10月22日）

（報告事項）

(1)東海・北陸地区国立大学長会議について

(2)昭和58年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)入学試験合格者の判定について

(3)転学科について

(4)学生の懲戒について

(5)学生の動向について

（審議事項）

(1)富山大学公開講座規則の制定(案)について

(2)富山大学教育学部規則の一部改正(案)について

(3)転入学について

(4)転学部について

(5)学生の除籍について

昭和57年度第9回学寮補導委員会（10月26日）

（報告事項）

(1)全寮委員会との話し合いについて

（審議事項）

(1)学寮の諸問題について（継続審議）

人　事　異　動

異動区分	発令年月日	氏　名	異動前の所属官職	異　動　内　容	任命権者
採　用	57.10.20	砺波　容子		技術補佐員（経理部主計課）	富山大学長
配置換	57.10.16	観山　雪陽	教授（滋賀大学教育学部）	教授（教養部）	文部大臣
臨時的任用	57.10.17	稲垣　千鳥		教諭(教育学部附属養護学校)	富山大学長
辞　職	57.10.31	坂下　れい子	事務補佐員（工学部）	辞職を承認	〃
退　職	〃	永井　正夫	臨時用務員(教育学部作業員)	昭和57年10月30日限り退職	〃

学内諸報

海外渡航者

渡航の種類	所属	官職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	附養教諭	舘森照明	フィリピン，イタリア，オーストリア，スイス，フランス	東南アジア(フィリピン)，欧州諸国の教育，文化，社会事情を視察し，今後の教育活動に資するため	57．10．19～57．11．16
海外研修旅行	人文学部	助教授	藤本幸夫	大韓民国	韓・中・日印刷文化交流研究学術発表会に参加のため	57．10．22～57．11．7
	経済学部	教授	吉原節夫	連合王国，フランス，スイス，ドイツ連邦共和国	欧州における労働事情及び労使紛争処理制度等の調査及び資料収集のため	57．10．16～57．10．31
	理学部	〃	広岡公夫	中華人民共和国	中国古代陶瓷科学技術国際討論会に出席のため	57．10．30～57．11．21
	教養部	〃	小島覚	カナダ	カナダ，アルバータ州の生態区分研究のため	57．10．3～57．12．30

学内レクリエーション

◇バドミントン大会

本学レクリエーション委員会体育部会バドミントン班主催による昭和57年度富山大学教職員バドミントン大会が，去る10月30日(土)に約80名の参加者を得て第1体育館で実施されました。

なお，成績は次のとおりです。

優　勝　経済・図書・短大チーム
次　勝　教養部チーム
三　位　工学部チーム，本部チーム

◇ソフトボール大会

本学レクリエーション委員会体育部会ソフトボール班主催による昭和57年度学内ソフトボール大会が，去る9月27日(月)から10月28日(木)までの間第2グラウンドで実施されました。

なお，成績は次のとおりです。

優　勝　経理部チーム
次　勝　工学部チーム

職員のサークル紹介

○囲　碁　班

「看護婦の目のあちこちに秋桜」コスモスが白，ピンクと庭一面咲き誇っているこのごろ，こちらは囲碁班です。

さて，現在囲碁班には約40名の部員が名を連ねています。段，級位順に申しますと，4段2名，3段2名，2段9名，初段10名，1級2名，2級3名，3級3名，4級3名，5級2名，6級3名，7級3名，8級2名となります。(本学の認定級)このほかにも一度も大会に参加されない方がたくさんいらっしゃるのではない

かと思います。

囲碁には良いことが幾つかあると思いますが，その中でも特に推奨できるのは頭を使うことでいつまでもぼけない，そして奥の深い遊戯と言われております。この奥深さを表現しているものに，〝碁路(キロ)三百六十のみ，しかして古今同じ局なし，その奥妙測られざるはいか。〟十一世林元美著「碁経衆妙(しゅう)」よりと書いてあるように，囲棋四千年とも呼称されている今日，なお同局がないと言われているのですから，奥の深さは計り知れないと言えましょう。

碁のルールは非常に易しい。普通初段になるのに10年かかると言われていましたが，昨今，普及が行き届き勉強すれば2年～3年でなれます。それだけに囲碁には妙味があります。やりだすと面白いものです。一度も碁を打ったことのない方，これから覚えてみてはいかがですか。

今年も12月ごろに年1回の囲碁大会を大学職員会館で開催するつもりです。どうぞ初めての方も奮って御参加ください。

●連絡先　施設課　佐伯信男（内線519）

○ソフトボール班

真剣なプレーが続き会場は一瞬静まりかえって緊張の気配が満ちている。そんなとき突然とんでもないエラーが飛び出し均衡が破れた。ボールがグローブをはじきそれを御丁寧にも更に蹴とばすといったそんな珍プレーがお目見えした。敵からも味方からもどっと歓声があがる。「あんたソフトやっとんのか，サッカーやっとんのか。」の掛け声もかかり，同時に得点がぞろぞろと入った。思わず手を打って喜ぶ者，ひざをたたいてくやしがる者，秋の日の昼食時間を利用して行われる部局対抗ソフトボール大会の一コマである。

「選手が一人足りないから是非出てください。」と拝むように言われ，「それでは」と出場することになり，夕方のなおらいの会では，はたまた話題の中心人物として登場せざるを得ないはめになり，ビールの味もさぞほろにがかろうと慰めの言葉の一つでもと考えていると，御当人の方はそんなこと一向におかまいなし，冷えたビールをさもうまそうに飲みながらいかにも良い気分といったそんな御仁の何と多いことか，私達ソフトボール班がお世話している学内ソフトボール大会にはよくある風景である。

毎年行っているこのソフトボール大会は，どのチームも勝ち負けを度外視して出場してくるチームは一つもないが，気分転換と志気高揚，日ごろの運動不足の解消に一役買っていることを班員一同の喜びとしている。

そんなことで体育部会の班員登録の時には，だれもが気軽に親しめるものとして○をつける人が多く，班員数は部会中でも大所帯の総勢60名を数えている。

当班の年間行事としては，この学内大会のほかに対外行事として国家公務員レクリエーション共同事業富山地区（通称R連盟）ソフトドール大会と富山共済支部ソフトボール大会があって，例年9月～10月に行われている。

本学からは，R連盟大会に3チーム，共済大会には1チームが出場できるため，その都度全学からよりすぐった精鋭チームを編成し出場しているが，いつも優勝あるいは準優勝の成績をあげるのが通例で他官庁チームから恐れられている。

老若男女が一堂に会し，楽しくスポーツに親しめる大会から，間一発を競いぎりぎりの勝負を争う大会まで，このスポーツに寄せられる守備範囲の広さをしみじみ感じながら。……この大学のキャンバスの中で，また，他官庁との交流の中で，お互いの親睦とコミュニケーションの輪が一層広がるよう私達ソフトボール班は今年も頑張っている。

当班の行事に対する御希望，その他御意見・要望等がありましたらどしどしお聞かせください。（文責，班長，島田政信）

●連絡先　経理部　松田幹夫（内線228）
人文・理学部　堀口　勲（内線282）

○ 将 棋 班

将棋は日本古来の伝統ある文化であり，教養性，娯楽性に優れた知的ゲームとして，奥深い内容を持っていると言われます。現在，将棋人口は一千万人を超える愛好者がいるとも言われています。

そんな将棋を趣味として，毎日毎夜将棋を指している棋士(?)が各職場で時間を超越して熱戦・舌戦を展開しています。初段を目指す方，更にその上を目指す方，ただ将棋そのものが好きな方，いろんな人たちが楽しんでいます。

将棋班では，現在班員40名が登録されており，年に一度の学内将棋大会及び工学部将棋大会を開催していますが，参加者の少ないのが非常に残念です。

初心の方も，有段者の方も大いに参加してください。ちなみに，昨年度の参加者は次のとおりでした。

学内将棋大会　19名
工学部　〃　10名

将棋に潜むその奥深い内容を追究し，技と心を磨き“教職員相互の親睦・交流を深めましょう!!

●連絡先　人文・理学部　能手哲治（内線283）

○排　球　班

我が班の活動は，部局対抗を基盤として金沢大学との対抗戦や，9人制バレーボールのクラブのある富山化学工業等富山市内の民間会社との交流を中心としています。しかし，富山医科薬科大学が創設された時点で，班の中心メンバーの半数がいなくなったこと等で現在の班員は約25名となり，ここ2～3年の活動はやや低調なものとなっています。

しかし，医薬大との交流を中心として，今年の夏は日程の調整ができず実施できなかったものの，金沢大学等を含めた交換試合や富山化学工業等市内のクラブ対抗を多くし，打倒金大と燃えた7～8年前の活気ある班にもどすべく努力中です。

なお，今年度の部局対抗は冬季（12～1月）を予定していますが，実施方法については班内でリーグ戦にしよう，いや例年どおりトーナメント戦にしよう，いや今年は冬季でもありツキ指などケガの心配が少しでも少ないビーチバレーボール大会を一度やってみたらどうかなどと意見が分かれなかなかまとまりません。要項を決定次第お知らせしますので，その時は御協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが，活気ある班にすべくバレーボールに興味のある方の入会をお待ちしております。

●連絡先　人文・理学部　伊野不二夫（内線516）

工学部の五福移転統合問題に関する経過

富山大学工学部移転促進小委員会委員長　柳　田　友　道

昭和39年，工学部教授会は工学部を五福地区に移転統合することを決議し，その後昭和41年，本学評議会がそれを機関決定して以来，実に十数年の歳月を費やしてきた。その間更に工学部教授会は昭和55年，改めてその推進を再確認し，同年評議会はそれを受けて全学的協力体制で臨むことを再確認した。そして学内に工学部移転促進小委員会を設置し，鋭意その推進に努めてきた。

このように工学部移転統合計画が本学の宿願であったにもかかわらず，長期にわたって実施できなかったのは，地元高岡市住民の，歴史的背景に根ざした工学部に対する近親感が強かったためであり，地域社会に生きる大学を指向する本学としては，十分な話し合いによって問題を解決したいとの態度を堅持したからであった。そして話し合いの中から，工学部に代わる国立高等教育機関を高岡市に設置するという気運が醸成され，現在進行中の高岡産業短期大学（仮称）の設置計画が昭和54年度以降，年次を追って着々と推進されてきたのである。

昭和56年11月27日，富山県と高岡市当局は，「富山大学工学部の富山市への移転統合を契機として設置が企画された高岡産業短期大学（仮称）の創設について，その趣旨及び経緯から，一日も早い実現」を期して，文部省と打ち合わせた上，同省に対して種々の項目にわたって，具体的かつ建設的提案を行った。その中に工学部の移転統合と関連して，了解事項として次のような提案が行われた。

「富山県及び高岡市は，現富山大学工学部運動場用地の一部（約5,000m²）について譲渡の申請を速やかに行うこととし，富山大学工学部の富山市五福地区への移転統合を，工学部運動場用地の譲渡の協議が関係機関との間で終了した時点で実施に移すことを了承するものとする。」

この越旨にのっとって，富山県及び高岡市は本学と種々協議の結果，本年6月30日，富山大学に対して工学部運動場の一部(6,183m²)譲渡に関する土地売払要望書を提出してきた。よって大学側は手続に従って，同地の処分に関する事務処理を進めてきたところ，最近大蔵省北陸財務局より，本年11月29日に国有財産北陸地方審議会を開催する旨通知してきた。この審議会の審議を経ることによって，国側は富山県に対して，工学部運動場用地の一部の売り払いを正式に認めることになるのである。なお本運動場用地の一部の売却については，工学部移転準備開始を条件に工学部当局並びに体育系教官の理解ある了承を得たうえ，学内関係委員会の議を経たことを付記する。

工学部の五福移転統合は本学の長年にわたる悲願であった。このたび文部省の指導並びに地元関係機関の協力の結果，それに向けて更に一歩前進することとなってきた。今後とも必要な事項は，本学報に報告していきたい。

寄　　稿

〈北緯7度の島〉

理学部　生物学教室　助手　笹　山　雄　一

私は本年，昭和57年6月下旬より8月下旬まで文部省科学研究費補助金により，赤道付近の海岸動物相の調査隊の一員として，ミクロネシア連邦とマーシャル諸島の2か国に出張いたしました。これは日本の海岸動物がどの程度，南方の動物相の影響を受けているか，すなわち，日本でみつかる海岸の動物のあるものはルーツを南方に求めることができるか否か，と言ったことを研究するためです。上記2か国は北緯7度に点々と浮かぶ海洋島で国連の信託統治域です。ミクロネシアではトラック諸島とポナペ島において，マーシャル諸島ではマジュロ島において調査を行いました。これらの島々は現在，アメリカの統治下ですが，過去に日本がその責務を負っていた関係で，どの島でも50才位以上の人達は日本語が達者です。しかしながら，過去，現在にわたって両国にはみるべき産業が無いこと，“アクセク”働き，明日への貯蓄という考えが無いこと，アルコール中毒患者の急増などの飲酒の問題，さらに，電力は乏しいにもかかわらずウォークマンはもっているといった“ちぐはぐ”な文明化，そして軍事的には大国にとってこれらの島の位置が重要な意味をもつ，等の理由で，将来も政治的にはこれらの国々は大変困難な問題をかかえているようにみえます。調査の進行とともに，大は戦争の残したもろもろの事象との軋轢から，小は禁酒の島ではどうやって酒を手に入れるかまで（これも大かもしれない?），色々な問題にぶつかりました。しかしながら，この稿では日本の野山とあまりにもかけ離れた風景をもつマジュロ島にのみしぼってお話ししようと思います。

この島は東経171度に位置し，まもなく日附変更線があります。島の地面を堀っても土はでてきません。大昔は土と岩で出来た島の周りにサンゴが発達し礁を形成していたのですが，この島は遠い過去にゆっくりとではあるが陥没してしまい，結局周りのサンゴ礁だけが首かざりのように残り，現在はその礁の上にヒトが住むようになったからです。海は藍く，空も青く，砂は白く，椰子の木は緑に繁る，といったように，それは「実に美しい……」島です。しかし，色はこの青，白，緑の3色しかありません。毎日，仕事として海へ出，その中で暮らすとなれば，美しいという感覚は汗の蒸発とともに次第にしぼみ，かわりに異常の世界にいるという気持ちが強くなってきます。太陽が照りつける正午近くでは自分の影がほとんどできず，サングラスなしでは目をいためます。この島の道路は舗装されていますが，島の幅が（道の幅ではない）20mという所もあり（前述のように点々と首かざりの島々が連絡しているため），そういう場所では無論，道路しかありません。道の片側は太平洋の荒波が打ち寄せ，片方はラグーンサイドの波が洗います。両側とも海なのです。道路には椰子の木の並木がおおいかぶさっている為，風の強い日には椰子の実が落ちてくるという“お

（トラック諸島，モエン島のアウターリーフにて，サメがいっぱいいました。）

（「海へむかってのびている」ようなマジュロ島の道路）

まけ”があります。このような道を島の端から端へ2時間も車で走ると，海の上へどんどん出て行くような不思議な感じがします。

最初に島へ着いた日，2階建てのホテルの1階は瓦礫の山で壁には1m50cm位までシミがありました。使用できる室は2階のみでした。2階の窓からは20m位のすぐそこに太平洋があります。反対側の窓からもラグーンサイドの海が見えます。この島は海抜3mないのです。1979年11月，午前11時ごろ，低気圧の接近とともに海がもち上がり，太平洋側からラグーンサイドへどっと潮が流れ込み，島は数時間にわたって海面下に没しました。ホテルの1階はその時に破壊されたままだと言います。ホテルのマネージャー氏は淡々と話してくれたのですが，大正時代にもこういう事があって，大正天皇が憐れに思われ，島民にお金を恵まれたそうです。村はずれにその記念碑があるとのことでした。すなわち，何十年かに1度は島は海に沈むわけです。日本人ならば島の周りにぐるっと高い防波堤をつくってしまうのではないでしょうか？島には日本の土木会社の技術者が2人いて現地の人と橋をつくっていました。この橋は海抜5mになるので島で1番高い建造物だそうです。これは日本からの寄附でまかなわれているとのことでした。

“所かわれば品かわる”とは言え，飛行機で一気に文字通り山の豊富な“富山”へ帰ってきた時，北緯7度の島々のことは「まるで夢…」だった気さえします。

▶　筆者は，文部省科学研究費補助金（海外学術調査）により，昭和57年6月23日から8月17日まで約2か月間太平洋信託統治地域ミクロネシア連邦，マーシャル諸島に外国出張されたので，特に寄稿を御依頼したものです。

〈チュービンゲン滞在記〉

人文学部　教授　提　山　淑　郎

私がドイツのチュービンゲンに入ったのは昨年の11月1日で，紅葉もすがりに入ったころであった。初めて見るドイツの山野は広大で，山といってもそれは高原の襞であり，その一つ一つを越えるのが日本でいう峠越えになるのであろう。シュトゥットガルト空港に迎えて下さったのはシュミットさん（元富山大学外国人教師）父子とチュービンゲン大学のキュンメル教授で，シュトゥットガルトのテレビ塔レストランで会食した後，キュンメル教授の車でチュービンゲンに連れて行って頂いたような次第で，先行き不安の私にしてみれば信じられないほどのスムーズなお国入りであった。

チュービンゲンという町は人口7万余りの旧城下町であり，ネッカー河畔に聳える城の麓に蝟集している旧市街と，周辺の丘に向かって開けている新開地から成っている。

旧市街の古い石造りの4階建の家並みに圧倒されて，石畳をたどると，いつの間にか市庁舎前広場に出る。新しいものでも百年，古いものなら四，五百年経っている家ばかりなので，木造とコンクリートの建物に見慣れていた私には脅威であった。先祖代々受け継いで定住しているという安定感というか土着性には歯がたたないなあとひそかに思ったことであった。

*

チュービンゲン大学は学生が約2万人おり，ハイデルベルクには及ばないが1477年創立の伝統のある大学で，古い校舎から新しい校舎が，旧市街と新開地の両方に跨って散在するという巨大なものであった。学部はプロテスタント神学部，カトリック神学部に始まって，法学部，経済学部，医学部，哲学部，社会行動学部，新言語学部，歴史学部，文化学部，数学部，物理学部，化学・薬学部，生物学部，地学部というふうに非常に細分化されていて15学部もあり，それに各種研究所も備えた一大総合大学であった。また町の人もこの大学をとても大事にし，誇りにしているように思われた。

私が受講したのは哲学部と新言語学部で，哲学部ではボルノウ教授と上記のキュンメル教授他2人の先生たちによる「人間学」のコロキウム，キュンメル教授の「責任論」の講義，新言語学部ではヴンベルク教授の「ドイツ文学史」の講義，ブリンクマン教授の「ホーフマンスタール論」の演習であった。授業は2時間単位で行われており，噂に違わず移動の時間を含んで，授業は15分程遅れて始まるのが普通だった。授業の進め方はコロキウムの場合は，一人の先生がその日のテーマについて報告された後，他の先生方及び学生とディスカッションを行い最後にまとめるという形態であ

り，演習の場合は学生が報告し続いてディスカッションを行い最後に先生がまとめられる。当番の学生はその回の分のまとめを作成し，それをコピーして次回に全員に配るという具合だった。

一般会話は別として生で聞く授業のドイツ語は全く私の予想を上回わった猛烈なスピードなので，初めのうちなかなか聞きとれず苦労したが，段々と慣れて来て学期末のころは話の大意が分かるようになった。このように授業に参加するほかに，私的には先生方に随分と御指導を頂いた。

こまごまとした私の研究分野に飽きもせず懇切丁寧に助言して下さった。

また先生方と授業が終わった後，近くの「ヘルダーリン塔酒場」で暗い蠟燭の下ワインを傾けながらいろんな話をしたり，毎週昼食時にはキュンメル教授と二人でドイツ料理はもちろんのこと，イタリア風，ユーゴスラビア風と食べ歩いたことや，先生方のお宅に招待されて見たこともない料理に目を回わしたことなど懐かしい思い出で一杯である。

先生方の暖かい御好意に甘えながら，一人暮らしには長いと思っていた9か月という研究期間はあっという間に過ぎてしまった。

*

それにしてもドイツの冬の寒さは聞きしに勝るものだった。それに1月10日に降った雪は30cmで30年ぶりとのこと，積雪量の多い富山からみれば問題にならないほど少量に思われるかも知れないが，気温が低く（最低気温は－14℃）一度降っは雪はまず消えてくれない。道が滑るので用心していたにもかかわらず，あるとき勢いよく転んで右腕を打ち二，三日手が痛んだ。しかしこの酷寒のおかげで，美しく晴れ上がった冬の朝の，ネッカー河沿いの小高い丘の樹氷は見事なものであった。

夜が長くて寒い冬もようやく終わり，4月11日の復活祭を過ぎると温和な気候となり，草花が咲き始め，木々も緑をつけ芽をふき出し，連繞の鮮やかな黄金の花がこぼれ始めると，人々の顔にもほっとした明るさが感じられた。4月はそれでもまだ寒い日があったが5月中端ともなると天気も夏型となり，気の早い若者は日光に肌を晒して冬の日照の不足分を取り戻そうとしているかのようだった。この時期になると春と夏の花が同居して咲いていたが，人々もアノラック姿があると思えばTシャツ姿もあるといったふうで服装が夏冬まちまちなのは妙だった。

*

私が住んでいた国際大学教員宿舎はチュービンゲンの丘の上にあり，ここには各国の研究者が家族連れか単身で住んでいた。この宿舎には管理事務所があって職員が常駐し入居者たちの一切の世話をしていた。非常に行き届いたもので日常の問題処理はもちろんのこと，入居者相互の交流のためにパーティを開いてくれたり，バス・ツアーを計画してくれたりした。私は喜んでこれに参加した。

入居者の国はアメリカ，カナダ，チリ，パキスタン，中国など比較的遠国の人が多かったようである。互いに話すのはドイツ語と英語の混じったものだった。この人たちもいずれは本国に帰り，また新しい人たちが入居するのであろう。全くの一期一会の者同志ではあったが，とても和やかに過ごすことができたことを有難いと思っている。

今，私の脳裏にはお世話になった先生方やその御家族，宿舎の管理人の方々，果ては近くの商店街の文房具屋やパン屋さんの顔が浮かんで来る。いよいよドイツを離れる時は，先生方や教室で知り合った学生たち，大学の宿舎関係の人たちも皆別れを惜しんでくれた。

私はドイツを出てからヨーロッパ諸国を訪れたが，私にはやっぱりドイツが良かった，チュービンゲンが良かった，そう思うほどにチュービンゲンは知らぬ間に私の第二の故郷になっていたのである。

最後に私の渡独に際して公私にわたり御援助下さった方々に対し紙面をかりて心からの謝意を表したい。

▶ 筆者は，文部省長期在外研究員（甲種）として，昭和56年10月31日から昭和57年8月30日まで約10か月間西ドイツチュービンゲン大学並びにヨーロッパ各国に外国出張されたので，特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

〈心のトラブル（その2）〉

～～～お酒は　常に　美酒であれ！～～～

保健管理センター講師　高　尾　テルノ

人びとは，なぜお酒を飲むのであろうか，どうして，アルコールに対する欲求をもつのであろうか。

学生生活を語るうえで，欠かすことのできない楽しみの一つにコンパがある。

クラスで，サークルで，また寮や下宿で学生が集まれば，いろいろの名のもとでコンパが行われる。例えば新入生歓迎コンパ。また，5月の大学祭の前後にも連日飲食会が行われる。10月の専門への移行期に，12月の忘年会，2～3月の追い出しコンパ，卒業パーティと――。

昭和57年4月から7月までの4ヶ月の間に，当センターに来所したアルコールによる治療者（急性アルコール中毒）数は15名で，そのほか救急車のお世話になったり，入院，医院への紹介などその数は年々増えてきているようだ。

また，昭和56年度の保健管理センター治療室利用者のまとめをみると，アルコール中毒・二日酔・胃炎などを含む胃腸疾患で来所するのは，4，5，6月そして12月，2月に多くみられる。丁度学生たちのコンパの多く行われる月と一致する。

我々，大人の日常生活を考えてみても同じである。

神社の祭礼などの神事の際とか，冠婚葬祭はもちろんのこと，忘年会といっては飲み，正月は当然のこととして酒びたり，春は花見，夏は汗を流したあとの一杯，秋は紅葉をめでて，冬は雪見と。また職場では，人事異動の際の歓送・歓迎会，仕事の能率が上った，何か行事を行う前のエネルギー補給，行事が無事終了したといっては飲み，対抗試合で勝ったとか，疲れなおしとか，何かと理由をつけて飲む機会が多い。

あるお酒好きの人は，お酒を飲むのは

- 世間での交際に役立つ。人間関係をつくる。
- 酒は，人びとをくつろがせ，親しくさせ，陽気にさせる。
- 宴会などで，社交的潤滑油の役割を果たす。
- 内気で遠慮ぶかい人を殻の中から引っぱりだすのに役立つ。――からだと。

また，若い人は，

- 酒は，内気，ぎこちなさ，あるいは除け者感を克服するのに，大変役立つ。
- お酒を飲むと頭が機敏に働くようになる。
- インスピレーションを得るために酒を飲む。
- トランペットやホルンを演奏する前に飲むと調子が出てきて，うまく吹ける。――とも。

多くの人は，お酒の効用というか，お酒を讃える。しかし中には，・疲れ，ストレス解消のため。・つき合いで仕方なく。・気分のすぐれぬ，イライラする時。・憂さ晴らしのため。・やけ酒だ。という人もある。

いずれにしても，ほどほどのお酒は，人びとを陽気にし，活力を高める。お酒の真の味を賞美でき，酒の肴の美味しさがそれに加われば，お酒飲みの正常な心理だと思う。

お酒を愛し，自然を愛した中国の詩人李白は，多くの詩を作っているが，中でもお酒を讃える詩が多い。

◇「山中にて幽人（かくれびと）と対酌（たいしゃく）す」

両人対酌山花開	両人対酌すれば山花開く
一杯一杯復一杯	一杯一杯復（ま）た一杯
我酔欲眠郷且去	我酔うて眠らんと欲す郷且（きみしばら）く去れ
明朝有意抱琴来	明朝意有らば琴を抱いて来たれ

◇「酒と共に」　嚢陽歌

鸕鷀杓	鸕鷀（ろじ）の杓（しゃく）
鸚鵡杯	鸚鵡（おうむ）の杯（はい）
百年三万六千日	百年三万六千日
一日須傾三百杯	一日須（すべか）らく三百杯を傾くべし
遙看漢水鴨頭緑	遙（はる）かに看（み）る漢水は鴨頭（おうとう）の緑なるを
恰似葡萄初醱醅	恰（あたか）も似たり葡萄（ぶどう）の初めて醱醅（はつばい）するに
此江若変作春酒	此の江若（も）し変じて春の酒と作（な）らば
壘麴便築糟邱台	壘（かさ）なれる麴（こうじ）は便（すなわ）ち糟丘の台を築かん

うの首にまねた杓と，おうむの貝で作った杯，ともに仙女の西王母の所にあったという酒器。

人生百年として，三万六千日，一日三百杯は飲む必要があろう。この波立っている漢水の緑色は，葡萄酒

が湧き立って醱酵するのに似ている。この漢水で春の新しい甘い酒を作るとすれば，酒をこしたあとの麹が積み重なって，いわゆる『糟丘台』ができあがるであろう。

『糟丘台』は，昔，夏の桀王が，荒淫酒色にふけり，酒で池を作り，その糟がたまって丘となったという。

このように，お酒を愛好する正常な飲酒であればよいが，最近は，お酒は好きでもなし，憂さ晴らしでもない，ただ，孤独を惧れるためにお酒に逃げる「現実逃避飲酒者」や「アルコール依存症」が激増しているといわれている。

現在，日本では，15才以上の男性の85%，女性の52%，5,700万人もの人が，量の多少はともかく，お酒に親しんでいる。その飲酒人口の3～4%が依存症と推定されており，その実数は150万人から200万人に及ぶものといわれている。

昭和30年代後半，経済が高度成長し始めたころから日本にアルコール中毒が増加した。その増加の要因として，人間関係，その他でストレスが増加したこと，食事の洋風化に伴ってお酒の種類が，日本酒からウイスキーなど，強い酒に変わったことなどがあげられる。

アルコール依存症にかかりやすい人は，仕事でお酒を飲む機会の多い公的飲酒型より，孤独を惧れ，悲しみや不安，欲求不満や外界からの苦しい世界から解放されたいために飲む人が多い。

味と香りにひかれて酒を飲む人も酔いたくて飲む人も，ストレスから逃避しようとしているのではなかろうか。

ある人は，「家で毎日，晩酌はするが，勤めの帰りに必ずといってよいほどに毎日，ある居酒屋で一杯飲んでから帰るのだ」と，その理由は，「職場と家庭とのスイッチバック（切りかえ）の場所なのだから～」と。

この話から考えられることは，人間の心は，時間と空間の軸が，縦糸・横糸を織りなしているもので，どちらか一方が喪失されると心のバランスを崩すことになる。

世の男性が職場の上役ともなると仕事・仕事で疲れ切り，家庭ではお金を持ってくる運び屋のみの存在になり，職場においても家庭においても心の時間と空間がしだいに失われ，自分自身のくつろげる空間がなく，職場と家庭をつなぐ中継点である居酒屋に立ち寄るというのも一つの「現実逃避飲酒」ではなかろうか。

詩人李白も，人生よいことばかりではなく，やはり苦悩の時代もあった。

◇「梁園吟」――梁苑酔酒歌に，酒，酒，酒，苦しさを紛らわすものは酒である。酒を飲むと気持ちが大きくなり，生来の高邁の気が生々と蘇ってくる。酒に酔って不満を解消して，自由に遊びまわる，放恣の行動が歌われている。

◇「憂愁を晴らさんとして」

歓言得所憩	歓び言りて憩う所を得たり
美酒聊共揮	美酒もて聊か共に揮まん
長歌吟松風	長く歌って松風に吟じ
曲盡河星稀	曲尽くれば河星は稀なり
我酔君復楽	我酔うて君も復た楽しむ
陶然共忘機	陶然として共に機を忘る

二人ともに楽しく語りあい，ゆったりとした。かくては美酒を飲もう。松風に吹かれて歌い続け，歌い終ってみると，天の川の星もまばらで夜もふけた。自分も君も酔っぱらって楽しかった。よい気持ちで，すべてのことは忘れた境地である。

愛と情熱を持って人生に取り組む時は，一日の終りに飲む一杯のお酒は，心を洗い，明日への意欲を盛り立ててくれる。また，生きがいのある人には，アルコール依存症になる割合は少ないのではなかろうか。

いつも心に，ゆったりとした時間と自由に振る舞える空間をもち，お酒はいつも心の妙薬であり美酒であってほしいものである。

▶　次号の保健管理センターだよりは，山本郁子栄養士による「酸性・アルカリ性食品」を掲載します。

中華人民共和国遼寧省青年友好代表団一行の来学

去る10月22日㈮午後3時30分，中華人民共和国遼寧省青年友好代表団（団長　王臣ﾗ遼寧省青年連合会主席）一行16名が，富山県内視察の一端として来学されました。

一行は，事務局大会議室において，学長から本学の概要説明を聞いた後，学内の施設特に附属図書館，第一体育館及び生活協同組合等を視察し，午後4時30分に本学を後にされました。

（事務局大会議室において歓迎のあいさつを行う柳田学長）

中華人民共和国遼寧大学からの寄贈図書

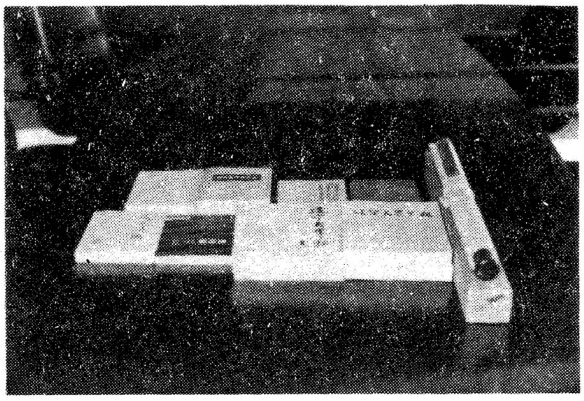
本学と中華人民共和国遼寧大学との学術交流を行うための本学学長から同大学の高仕克学長あてのメッセージを，先に富山県が実施した日中友好親善のための訪中団（団長富山県知事）に託されました。

これに対し，10月18日高仕克遼寧大学長からの返書並びに下記の図書（目録のとおり）が訪中団副団長(横沢富山県生活環境部長）から大学学長に届けられました。

寄贈図書目録

新編世界近代史	上冊
〃	下冊
政治経済学	社会主義部分
民間文学概論	
“九，一八”事変史	
世界経済	第一冊
〃	第二冊
外国経済史	近代現代　第三冊
清史簡編	上編
遼寧大学学報	哲学社会科学版
〃	〃
〃	〃
	（1982　1～5　各2冊）

計 21 冊



（遼寧大学から寄贈された図書及び掛軸）

善　行　表　彰

教育学部山地啓司助教授は，去る8月24日午後2時ごろ富山大学プールにおいて，おぼれて仮死状態にあった本学学生を救助しました。

富山大学職員表彰規則に基づき，学長から本学職員の模範とする立派な行為であるとこの善行をたたえて表彰されました。

第33回電信電話記念式典における感謝状授受

去る10月23日富山電報電話局において第33回電信電話記念式典が行われ，永年にわたり電信電話事業に協力された方々が，富山電報電話局長から感謝状を受けられました。

本学では，庶務部庶務課電話交換手福田侑子氏が感謝状を受けられました。

富山大学事務用電子計算機の設置披露

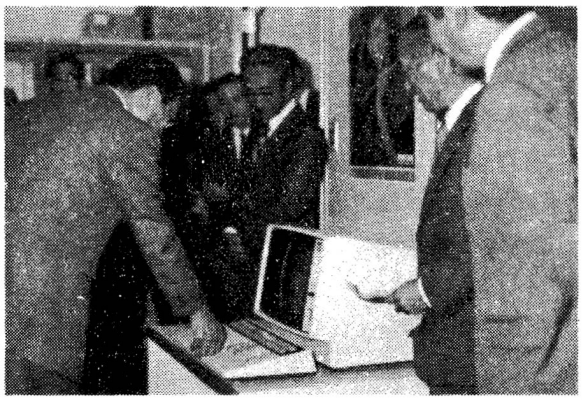
11月1日午後3時から関係者多数の出席のもとに，本部の事務電算室において新しく導入された事務用電子計算機（FACOM ED S－V）の学内披露が行われた。

披露は事務局長のあいさつに始まり，テープカット，コンソール操作卓のスイッチ操作によるシステム稼動開始があり，併せて中央処理装置及びその他周辺機器についての説明が行われた。

今回本学事務電算室に導入された小型事務用電子計算機は，文部省による国立学校事務電算化構想に基づくもので，全国を13ブロックに分け，ブロックの中心となる国立学校にセンター用中型事務用電子計算機を，他の国立学校に小型事務用電子計算機をそれぞれ設置して，その間を公衆通信回線で結び，国立学校の共通事務を共同処理して事務の効率化，省力化を図ることを目的としているものである。

当北陸地区（5大学，4高専で構成）では，55年度にセンター校である金沢大学に中型電子計算機が導入されており，56年度には福井大学に小型電子計算機が導入されている。

本学では，この導入により当初は人事・給与計算システムの稼動を実施するが，今後は他の共通事務システムについても当北陸地区において共同開発し，逐次電算処理を進める計画である。



（テープカットの後，コンソールからシステム稼動操作する長谷川事務局長）

◎退庁，退室の際には，電気，ガスの消し忘れ，タバコの吸殻の後始末に十分注意し，火災の予防に心がけましょう!!

◎電気，ガス，水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

職員消息

《新任者》

経理部

技術補佐員（主計課，計算機センター）　砺波容子

教育学部

附属養護学校教諭（小学部）　稲垣千鳥

教養部

教授（専門，哲学）　観山雪陽

工学部

文部事務官　松島倶子

教養部

助教授　山本孝一

トリチウム科学センター

文部技官　三宅　均

《住所変更》

教育学部

文部事務官　長崎　悟

経済学部

文部事務官　長崎宏美

《住所表示変更》

庶務部

給与係長　森井　正

教育学部

教授　加瀬正二郎

経済学部

庶務主任　奥田雅子

主要行事

本部

10月
1～7日　昭和57年度国家公務員健康週間
1～8日　昭和57年度物品の定期検査
3日　昭和57年度国家公務員初級採用試験（教養部）
4～5日　昭和57年度東海・北陸地区安全管理協議会（於岐阜大学）
昭和57年度文部省共済組合地区別事務担当

者打ち合わせ会（於公立学校共済「なにわ会館」）
5日　第8回学寮補導委員会
5～7日　第36回東海・北陸地区国立大学等施設部課長会議（於三重大学）
7日　胃の検診
8日　第4回部局長懇談会
第5回事務協議会
第2回事務改善委員会
13日　昭和57年度東海・北陸地区管理事務協議会（於名古屋工業大学）
14日　第35回東海・北陸地区国立学校等庶務部課長会議（於名古屋工業大学）
第3回学園ニュース編集委員会
15日　第39回東海・北陸地区国立大学長会議及び事務局長懇談会（於浜松医科大学）
18日　循環器検診
19日　昭和58年度科学研究費補助金事務担当者説明会（於大阪大学）
北陸地区国立学校事務電算化専門委員会（会計事務部会）（於金沢大学）
19～22日　昭和57年度東海・北陸地区国立学校等係長研修（於三重大学，高田青少年会館）
21日　電気通信管理セミナー（於商工会議所ビル）
第9回北陸地区国立学校施設担当者連絡協議会（於金沢大学）
第4回補導協議会
授業料等減免選考委員会
22日　第7回評議会
第17回東海・北陸地区国立大学事務局長会議（於福井医科大学）
中国遼寧省青年友好代表団一行（16名）来学
26日　国立大学協会第3常置委員会（於東京大学）
第9回学寮補導委員会
28～29日　第62回東海・北陸地区国立学校等会計部課長会議（於福井大学）
第37回国立大学学生部次長協議会（於愛媛大学）
29日　構内交通対策委員会
30日　親和会レクリエーション（氷見『魚眠洞』）
学内バドミントン大会

文理学部

10月15日　後学期授業開始

人文学部

10月1日　物品定期実地検査
5日　胃の検診
13日　学部教務委員会
教授会
人事教授会
14日　入学試験検討委員会
学部将来計画委員会
15日　後学期授業開始
専門教育課程移行者オリエンテーション
循環器検診
19日　国立15大学人文系事務長会議（於高知大学）
20～21日　国立15大学人文系学部長会議（於高知大学）
紀要委員会
26日　学部補導委員会
27日　教授会
人事教授会

教育学部

10月4日　教育実習検討委員会
4～5日　日本教育大学協会北陸地区第二部会理科研究協議会（於信州大学）
5日　入試方法研究委員会
6日　胃の検診
学部教務委員会
7日　物品の定期検査
8日　附属学校運営委員会
9～10日　日本教育大学協会北陸地区第二部会国語科・書道科合同研究協議会（於金沢大学）
12日　入試方法研究委員会
学部補導委員会
教務委員会・補導委員会合同会議
13日　教授会
18日　日本教育大学協会附属学校委員会（於東京学芸大学）
循環器検診

18～19日　日本教育大学協会北陸地区第二部会社会科研究協議会(於黒部荘)
19日　入試方法研究委員会
20日　専門教育課程移行者に対するオリエンテーション
人事教授会
21日　後学期授業開始
21～22日　秋季北陸地区教員養成学部事務長協議会(於両津市)
22～23日　日本教育大学協会北陸地区第二部会外国語科研究協議会（於金沢大学）
26日　附属養護学校公開授業研究会
26～27日　日本教育大学協会北陸地区第一部会・第二部会合同会議（於福井大学）
28日　入試方法研究委員会
29日　学部補導委員会
教育実践研究指導センター運営委員会
29～30日　日本教育大学協会北陸地区第二部会保健・保健体育科研究協議会（於信州大学）
30～31日　日本教育大学協会北陸地区第二部会教育学・教育心理学・特殊教育・幼児教育部門研究協議会（於新潟大学）

経済学部

10月12日　各種委員選考委員会
13日　学部教務委員会
教授会
14日　オリエンテーション（専門教育課程移行者）
15日　後学期授期開始
20日　学部図書委員会
論集委員会
日海研運営委員会
拡大教務委員会
学部施設整備委員会
コンピュータ管理運営委員会
助手室業務運営委員会
22日　昭和57年度秋季国立11大学経済・経営学部長・事務長会議（於富丘会館(東京)）
27日　学部補導委員会
学部教務委員会
人事教授会
教授会
30日　新・旧合同論集委員会

理学部

10月1日　物品定期実地検査
5日　胃の検診
13日　教授会
15日　後学期授業開始
専門教育課程移行者オリエンテーション
循環器検診
16日　学部教務委員会（持回り）
20日　昭和60年度入学者選抜学力検査実施教科・科目に関する会議
28日　国立22大学理学部長会議（於学士会館）
国立大学理学部長懇談会（於学士会館）

工学部

18月8日　物品定期検査
12日　学部教務委員会
13日　教授会
工学研究科委員会
14日　胃の検診
15日　2年次学生の専門教育課程移行オリエンテーション及び講演
18日　後学期授業開始
北陸信越地区国立大学工学部長会議（於金沢大学）
19日　循環器検診
20日　学部構内交通対策委員会
46工学系学部長会議（於広島大学）
27日　入学試験検討委員会

教養部

10月4日　補導委員会
12日　教授会
教授のみの教授会
13日　昭和57年度公開講座開始（～11月17日まで15回）
15日　後学期授業開始
27日　内地・在外研究員に関する委員会
教授会

附属図書館

10月
1～7日　図書点検（経営短期大学部研究室等）
6日　物品定期検査
7日　係長事務打ち合わせ
　　胃の検診
12日　係長事務打ち合わせ
15日　循環器検診
26日　図書館業務電算化研究会

経営短期大学部

10月1日　後学期授業開始

6日　物品定期検査
　　第12回国立短期大学事務連絡協議会（於地方職員共済組合和歌の浦ビーチホテル）
7～8日　第32回国立短期大学主事・事務長会議（於地方職員共済組合和歌の浦ビーチホテル）
7日　胃の検診
14日　第11回教授会
15日　循環器検診
19日　第12回教授会（持ち回り）
21日　第1回入学者選抜学力試験委員会
22日　第13回教授会（持ち回り）
22～24日　第23回経短祭

◇訂　正（おわび）

学報　昭和57年10月1日発行　第227号

ページ	訂　正　箇　所	誤	正
2	関係法令の規則の項目の一番目	……（初任給，昇格，昇給等の規準）……	……（初任給，昇格，昇給等の基準）……

資　料

附属図書館利用統計

利用状況　（昭和57年4月～9月）

区分	入館者数	館外貸出 教職員		館外貸出 学生		館外貸出 計		参考業務利用数	文献複写利用数 受付		文献複写利用数 依頼	
		人	冊	人	冊	人	冊	件	件	枚	件	枚
図書館本館	133,081	1,215	8,419	6,694	9,062	7,909	17,481	723	1,077	12,389	587	8,754
工学部分館		1,396	3,230	2,488	4,652	3,884	7,882	63			445	3,365
合計	133,081	2,611	11,649	9,182	13,714	11,793	25,363	786	1,077	12,389	1,032	12,119

編集　富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所　あけぼの企画
富山市曙町9－1
電話(33)3356(代)